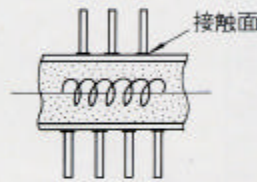


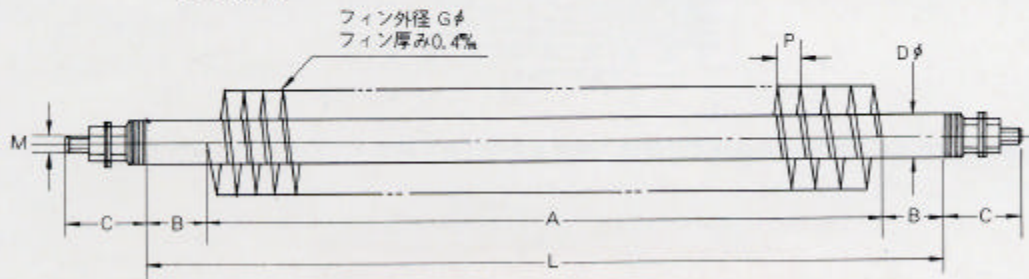


フィンヒーターは、従来のエロフィンヒーターと異なり、接触面はローレット加工（特許）により完全にパイプとフィンが圧着させてあります。又、用途に応じた材質を自由に選択出来（CU, AL, Fe, Sus）現在あらゆる方面の熱機関に貢献いたしております。

CATALOGUE
NO. 4402



標準仕様



型 式	電 圧	容 量	寸 法 (mm)									
			L	A	B	C	D	G	P	M		
GS4-1	50V	500W	400	340								
◇ 2	100V	1KW	850	790								
◇ 3		333W	545	485								
◇ 4	116V	420W	400	340								
◇ 5		500W	400	340								
◇ 6		830W	850	790	30	25	11	26	4	5		
◇ 7		1KW										
◇ 8		1.11KW	1000	940								
◇ 9		1.25KW										
◇ 10		830W										
◇ 11		1KW	1155	1095								
◇ 12		1.11KW										
◇ 13		1.2KW										
◇ 14	1KW											
◇ 15	1.11KW											
◇ 16	1.11KW											
◇ 17	1.2KW											

上記規格品エレメント以外の容量及寸法については、御紹介の都度設計、製作、御見積り申し上げます。

特 長

●伝熱状態が良い

従来のエロフィンヒーターやストレートフィンヒーター等と異って、ヒーターパイプ表面をローレット加工しフィンを圧着してあるので、フィンとの接触面は約20%増加している。従って、シーズヒーター表面からフィンへの熱伝導が従来のものに比較して大変良好である。

●表面電力密度が高く採れる

従来のものに比較して、同一条件下にて高電力密度とすることが出来る。従って同一容量のものについては形状を小型にすることが出来る。

●絶縁抵抗値及び寿命が大

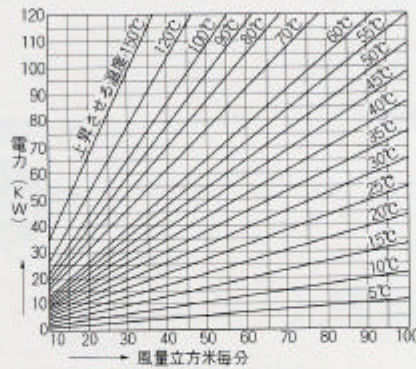
同一条件下に於いて同一形状同一容量（同一電力密度）で使用する場合にはシーズヒーター表面温度及内部発熱コイル温度が従来のものに比較して低くすむので、絶縁抵抗値は大きくヒーターの寿命が長い。

●フィンが密着している

フィンがヒーター表面に喰込ませ圧着しておりますので、運転中の熱サイクルを受けても、又万一フィンの両端の止めが外れてもフィンは緩んだり外れたりすることがない。

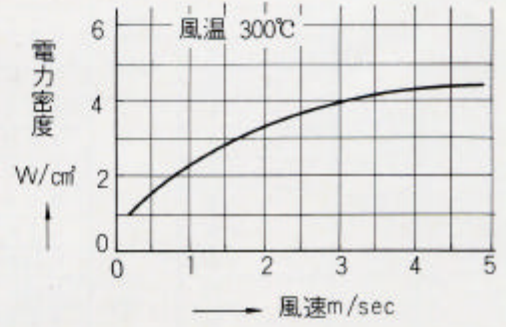
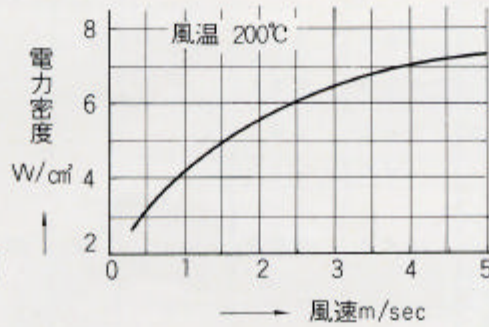
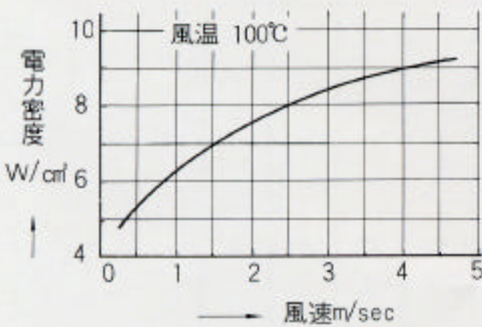


風量及上昇温度と電力の関係



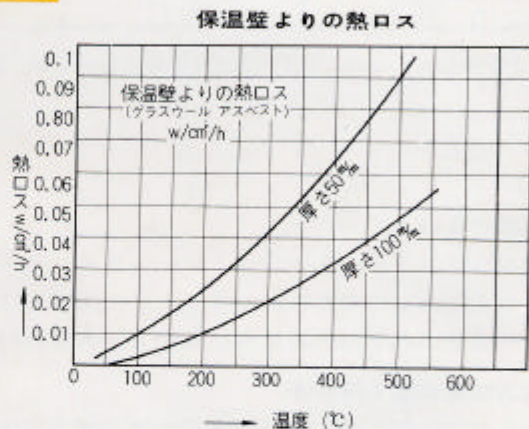
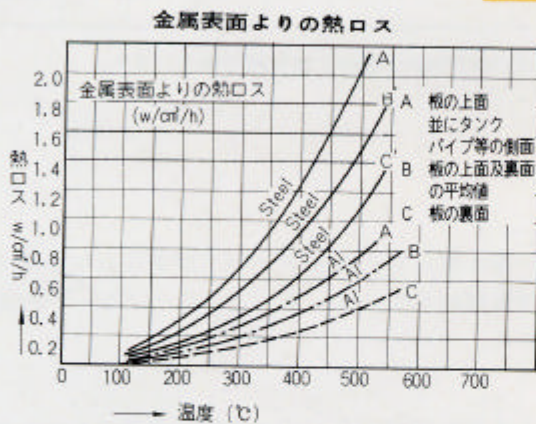
④ 上記の上昇温度は必要温度より常温（場所及条件により異なります）を引いた温度であります。

風速及風の温度とW密度の関係



④ ヒーター取付間隙及配置により電力密度を調整する必要があります。

熱ロス表



気体加熱電力計算式（工業計算用）……………KWH = $\frac{(\text{気体重量kg}) \times (\text{気体比熱}) \times (\text{上昇温度}^\circ\text{C})}{860}$

ワット密度計算式……………W/cm² = $\frac{\text{エレメントの容量(W)}}{\text{パイプ径} \times 3.14 \times \text{発熱長}}$